

FLYING FISH

高知工科大学ニュースレター

61

2015 WINTER



ゲーム理論で モノ・コトの仕組みを 分析してみる

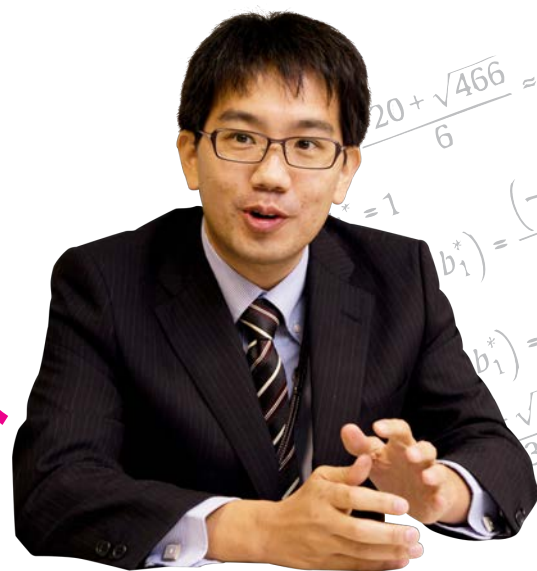
by YOSHIO KAMIJO

Using game theory to
study human behavior
and society.



社会の難問を解き明かす「ゲーム理論」で最良の未来へ

かみじょう よしお
上條 良夫 准教授 マネジメント学部



私たちの日常に潜むゲーム理論的思考とは？

私たちは、人生のさまざまな局面でよりよい選択を迫られている。人生を左右する大事なことこそ、運を天に任せてしまうのではなく、相手の出方やそれぞれの選択肢の損得について徹底的に考え、最善の選択をしたいものだ。こうした相手の行動を予測しながら、合理的な意思決定を分析する学問をゲーム理論という。一見複雑な人間行動や社会現象が、数理モデルを使うことでクリアに理解できることから、経済やビジネス、そして日常生活に至るまで、あらゆる問題解決に応用されている。

昨年本学に赴任したゲーム理論家・上條良夫先生によれば、ゲーム理論は私たちの日常の中にも潜んでいるという。

「授業中に私語をするかどうか」を例に挙げると、私語は周りに影響を与えますよね。うるさいかもしれないし、それによって先生の機嫌が悪くなるかもしれない。そういう影響を少しでも気にしているなら、それはゲーム理論的思考ですね」

相手の反応を想定しながら、自分の行動を決定することは、まさにゲーム理論に通ずるのだ。

直感を越えたところに新たな発見がある

上條先生がゲーム理論の研究を始めたのは、大学4年生の頃。当初はリアリティのない数学的な世界に何の面白みも感じられなかったが、博士課程の頃に得たある発見によって、その楽しさに一気に目覚めてしまう。

当時上條先生は、「法律を守らない人を厳しく罰する場合とあまり罰しない場合のうち、どちらがより違反の抑止効果につながるのか」というテーマに取り組んでいた。直感では、厳しく罰した方がよいと考えてしまうが、数理モデルとして解析すると、予想に反して逆転する結果となった。その意外な結果を読み解こうと、上條先生は根拠について熟考した。例えば、「歩道では時速25km以上で走りなさい」という到底守れないような法律があると仮定する。警察が守れない人すべてを確実に罰している、どうせ守れないので罰されても仕方がないと、ほとんどの人は歩いてしまうだろう。

しかし、罰する人を最小限にすると、みんなビリにならないくらいには走るかもしれない。そうすると、前者より多くの人が法律を守って

いるということになるのだ。「くだらない発見かもしれませんが、日本社会では厳格に法を守っているかどうかより、周囲からどれだけ逸脱しているかで判断されることが意外と多い。つまり、無理に全員を罰しないことが、あいまいな環境をつくり、法の抑止効果が上がっている場合があるんです。直感には反しているけど、理屈はわかる。ゲーム理論的に考えることって、思わぬ発見があって面白いなと思いましたね」

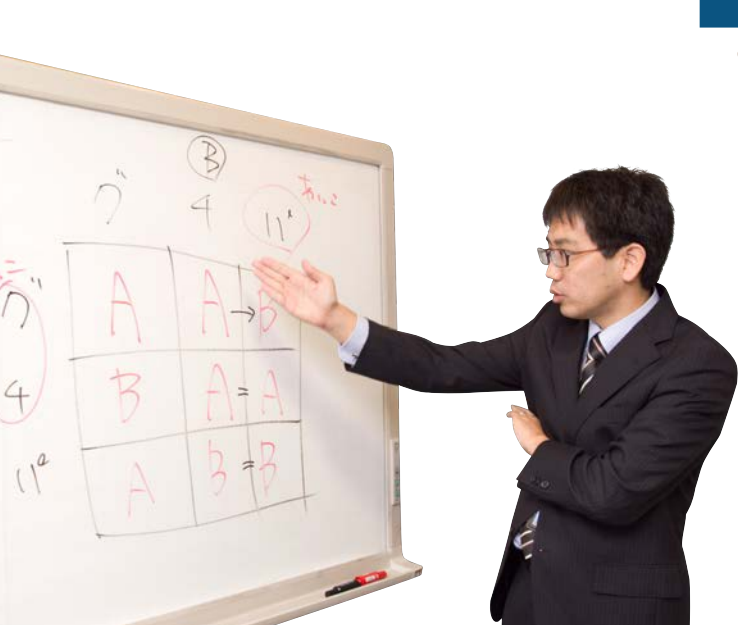
それ以降、ゲーム理論で身の回りのさまざまな現象に切り込み、意外な結果の根拠を探る面白さにのめり込んでいった。「新たなテーマに取り組む時は、まず最初に自分の直感に合うことが数理的に算出できるかを試してみます。それができれば、自信を持って、次は直感が動かない部分はどうかと、その数理モデルを展開する。そうすると、直感とは異なる予想外の結果が見えてくるんです」

一つのテーマでも、掘り下げればそれだけ未知なる世界



「ゲーム理論」がよくわかる4冊
『市場を創るーバザールからネット取引まで』
ジョン・マクミラン著／NTT出版
『戦略的思考とは何かー
エル大学式「ゲーム理論」の発想法』
アビナッシュ・ディキシット、バリー・ネイルバフ著／
阪急コミュニケーションズ
坂井豊貴著／筑摩書房
『ミクロ経済学 戦略のアプローチ』
梶井厚志、松井彰彦著／日本評論社

複数人の意思決定が相互作用する状況进行分析する場合は、表を用いて行動の組み合わせを考え、それぞれの利得を設定。それをもとに結果を数理的に予測する。つまり、その状況によって起こりうるすべての可能性を「見える化」することが、ゲーム理論的分析の第一歩となる。



が広がる。上條先生はそんなゲーム理論の奥深さに魅せられ、研究者としての道を歩み始めた。

身近にある現象を解明し、実践に生かす

上條先生が特に力を注いできたのが、報酬と懲罰に関する研究だ。組織や集団における、メンバーのモチベーションを喚起するための手法には、トップにご褒美を与える報酬型とビリを罰する懲罰型の2つがある。上條先生はゲーム理論によって、これらの集団全体への影響や効果の違いを解明してきた。

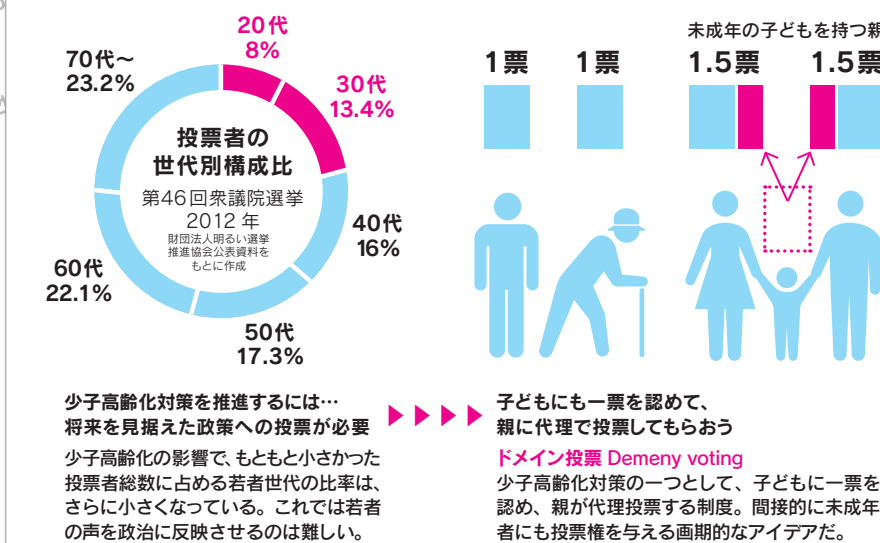
まず最初に、「能力のある人が伸びるのは報酬型で、逆に能力がない人もそれなりに頑張るのが懲罰型だろう」という、何となく想像がつく部分を数理モデルを使って示し、その次に直感ではわからない状況へと踏み込んでいった。「例えば、斬新な企画を出すといった、誰かができればよいことは報酬型、毎朝定時に出勤するといった、全員に守ってほしいことは懲罰型が明らかに適しています。そう考えると、両者には使い分けがあって、それは集団の中にいる人々の能力の格差の大小によるのではないかと予測しました」

そこで計算による分析を行ったところ、体育の授業のように、一人ひとりの能力の格差が大きい場合は報酬型が、プロ野球チームのように、メンバー全員がほぼ同等の能力を持つ場合は懲罰型が適しているという結論に達した。今後はこれを実証するための実験を行い、新たな理論構築をめざしていく。

このように、複数の主体が関わる状況をゲーム理論の考え方に基づいて分析することで、あらゆる場面における“判断の指針”が得られるようになる。

「私も学生に対しては、まさにアメとムチを使い分けています。能力を伸ばそうと頑張ったこと

▶ 少子高齢化を打開するアイデア！



についてはたくさん褒めますが、あいさつや礼儀など、誰もができて当然のことは厳しく指摘しますね」

自ら得たゲーム理論の知恵を実践し、教育に生かしているのだ。

少子高齢化を打開する世界に先駆けた仕組みづくり

最近になって、上條先生は親に子どもの分まで投票権を付与する新しい投票方式「**ドメイン投票**」の研究をスタートした。少子高齢化によって投票者が高齢化すると、高齢者に有利な政策ばかりが選ばれ、若年世代の将来に無関心になる傾向がある。「ドメイン投票」は、それを是正するために、人口統計学者のポール・ドメインによって1986年に考案された。いくつかの国々で導入が検討されてきたが、まだ実現には至っていない。

上條先生は、被験者に自らの投票権に加え、将来世代の分も代理投票をさせた場合にどう振る舞うのかを実験によって調べたところ、その多くが私利私欲ではなく、将来世代の利益となるよう配慮して投票するという結果を得た。また、若者の投票率の低さが問題視される現状にあって、「ドメイン投票」によって二票以上を持つことが、投票に行く動機につながるの否かを数理モデルを使って解析を進めている。

「全国的に見ても少子高齢化が格段に進んでいる高知県に暮らし始めたことで、地域性を加味しながら、もっと直接的に社会のためになる研究がしたいと思うようになりました」と言う。将来の展望は、「ドメイン投票」を世界に先駆けて高知県内の市町村で実践することだ。「もともと選挙権は一部のエリート層から始まり、民主化の進展とともに、すべての成人へと広がりました。それを子どもにまで広げることは、民主主義の限界への挑戦です。もし『ドメイン投票』が高知で実現すれば、“世界で最も民主的な県”として、ノーベル平和賞を受賞するのも夢ではないかもしれません。そんなことが実現できたら楽しいですね」

高知県が少子高齢化対策の世界的なパイオニアとなる——そんな未来図を描きながら、理論研究と実証実験を重ね、この地に合った最適な仕組みを構築していくつもりだ。

「ゲーム理論とは一つの世界観そのもの。だから、研究と自分の人生観が合致していることが、ゲーム理論家として何より大切だと思っています」と語る上條先生。高知に暮らし、研究に取り組む中で、日常にヒントを得ながら新たな切り口を見出す。社会の難問を解決に導くゲーム理論の可能性は、課題先進県・高知でこそ花開くのかもしない。



Professor's personality

7年前に始めた茶道が趣味。茶道には暗黙のルールがたくさんあり、そこにゲーム理論的な思考を見出したい、というゲーム理論家ならではの好奇心が、継続の原動力になっている。「何十年と続けてようやく形になる世界なので、まだまだ修業が必要ですね」と言う。まずは「高知でお茶席に参加すること」が今一番の目標だ。

上條良夫

TOPIC

① 地域×工科大×学生のタッグ
タノシム防災イベント

10月5日(日)、「守ろう命・学ぼう防災 in 工科大」を本学にて開催しました。

大規模地震発生を想定し「いのちを守る・いのちをつなぐ・防災について学ぶ」のテーマに沿って、ゲーム形式で災害時の対応を身につける「防災運動会」やカレーライス・豚汁の炊き出し訓練など、学生や地域みなさん、約100名が参加しました。

学生防災ボランティア団体KPADが中心となり実施した運動会では、就寝時の地震発生を想定し防災用具を使って避難するまでを競う「避難所までたどり着け! ～障害物競走～」、災害弱者(けが人、お年寄り、妊婦、視覚障害)に扮した人と一緒にゴールをめざす「あなたは見つけられるか? ～借り人競走～」や、「防災知識王に俺はなる! ～防災〇×クイズ～」など7種目を4チーム対抗で競い、防災への理解を深めました。

高知県の防災
キャラクターも参加!

いのちをつなぐ
炊き出し訓練

地域の方々と一緒に、避難生活を想定し100人分のカレーと豚汁を調理しての実践訓練。



あたたかいごはんは命と心のエネルギーに直結します。過酷な状況でも、工夫してやりくりする力が求められます。



食材の調達・配分だけでなく水場や燃料の確保など普段のあたりまえがとても貴重であることに気がきます。



お湯や水を注いで待つと、やわらかいご飯ができる「アルファ米」を使いました。

運動会をきっかけに!
他人事から自分事へ!

あると常にご感じてほしいです。参加者のみなさま、実施にあたり多大なご支援をいただいた方々、本当にありがとうございました。

KPAD代表
鈴田和基くん
(マネジメント学部2年)



防災は固いイメージが強く、関心はあっても実際に対策行動へ結びつけにくいですが、楽しみながら防災を学ぼうと防災運動会を企画しました。参加者の方から「楽しかった」「ためになった」など感想をいただき、今回の運動会をきっかけに、災害は他人事ではなく、自分にも襲いかかる自分事でも



少しでも多くの人が、この運動会をとおして防災について何かきっかけをつかんでくれたら嬉しいですね。今回のイベントを企画して大変な事もありましたが、やり遂げた今は、達成感でいっぱいです。不安定な天気の中、ご参加いただきありがとうございます。ありがとうございました。

KPADスポーツ×防災プロジェクトリーダー
防災運動会実行委員長
近藤駿くん
(マネジメント学部2年)

いのちを守る
防災運動会

「防災×スポーツ」。おなじみの競技種目に防災という観点をプラス!自分の命を守る体力づくりにもつながります!当日の競技種目の一部をご紹介します。

避難所までたどり着け!
【障害物競走】

寝ている時に地震が発生した中での避難を想定した障害物競走。目の前の防災用具を使ったり、障害物を避けたとっさの判断力が試されます!

あなたは見つけられるか?
【借り人競争】

ケガ人や体の不自由な人などハンデを抱えた人と共に落ち着いて避難する手順を学びます。巨大地震の前では誰でもケガの危険にさらされ、災害弱者となる可能性があるのです。

TSUNAGU
【伝言ゲーム】

災害現場は様々な情報が行き交い混乱する局面が予想されます。正しい情報把握や的確な伝達も命を守る大事なチカラです。



陸猿【三人四脚】

いつ・どこで地震に遭遇するかわかりませんし、平坦な避難路とは限りません。三人四脚で見知らぬ人とお互いの息を合わせ、助け合いながら逃げるコミュニケーション力を養います。

防災について学ぶ
体験・講習会

災害に直面した時の判断が、生存の分かれ道に。事前に体験しておく、落ち着いて対処できます。



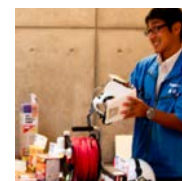
起震車体験

香美市で想定される震度6強の揺れを実際に体験。



心肺蘇生講習

的確な処置にもコツがあります!



防災グッズの展示
防災の視点で見直してみると、防災グッズへ転用できるキャンプ道具やDIYの工夫が見つかります。

TOPIC

2 こどももおとなもおじいちゃんもおばあちゃんも！ Flying Fish Festival 2014

10月18日(土)、19日(日)の2日間、第18回本学大学祭「Flying Fish Festival 2014」を、例年同様、「刃物まつり(主催:香美市商工会・刃物まつり実行委員会)」と併せて開催しました。

学生の活気あふれる模擬店が並び、ステージではよさこい演舞や山田太鼓演奏など多彩なイベントを行ないました。加えて、アーティスト「いちむじん」のライブやよしもとお笑いライブなど、ご来場の方々に大いにお楽しみいただき、今年は打ち上げ花火が夜空を彩りフィナーレを飾りました。



大学祭実行委員会一同より

今年も大学祭を無事終えることが出来ました。最後の打ち上げ花火を、この場に集まった一同で見上げた瞬間、心が一つになったように感じました。開催



にあたり、ご協力いただいた香美市商工会、協賛企業の方々をはじめ、関係者、ご来場のみなさまに厚くお礼を申し上げます。

TOPIC

3 土佐山田の冬の風物詩としてすっかり定着！ KUT + illumination'14

12月1日(月)～1月4日(日)の約1ヶ月間、美しさが自慢のKUTキャンパスをイルミネーション(約3万球のLED)でさらにロマンチックに彩りました。学生が主体で行うこの取り組みは、地域の方との交流を図ることを目的に行っており、今年が12回目。

12月20日(土)、21日(日)と今年も2日間にわたって開催されたクリスマスイベントでは、「アースデイズシンガーズ」と「高知市民合唱団」をゲストとして迎え、アカペラやジャグリングの披露、書道部パフォーマンス、Space.Lab部によるLEDロケット発射など、訪れた方々をクリスマスモードに包みました。



プロのキャンドルアーティスト藤岡さわさん、武市和士さんによる演出や、本学「ココイコ!プロジェクト」のテーマ「カカシ×キャンドル」で、神池地区の方々で作成したカカシやゆずの香りのキャンドルで龍河洞内を装飾しました。

また、12月23日(火・祝)の龍河洞クリスマスキャンドルナイトでは、1億7,500万年の歴史があり、全長4kmに及ぶ鍾乳洞内を3,500本のキャンドルを用いてライトアップしました。龍河洞の自然の造形美と普段とは違う幻想的な空間で来場者を楽しませました。ミニコンサートでは工科大ジャズ研究会、アカペラサークルKOCO'Aがクリスマスソングを披露するなど、地域の方々との交流も深めました。



大学祭は地域の方々に日頃の研究成果を発表する場でもあります。みなさま興味を持って話を聞いたり体験してくれました。



今年のテーマは
home

子どもからお年寄りまで、様々な方が高知工科大学でわきあいあいと温かく過ごしてほしいという意味を込めています。

Welcome to KUT!



今年のテーマは
水
～春夏秋冬～

命の根源である「水」を通して日本の美しい「春夏秋冬」を神秘的な空間で表現します。



学生食堂(生協)では「2014クリスマスカフェ」を12/21(日)のみopen!温かい飲み物やケーキの販売、くじ引きなど催しました!

KUT Quarterly NEWS

North, East, West, South

活動報告 ロボット倶楽部 キャチロボバトル準優勝!



9月6日(土)、京都芸繊維大学で開催された「キャチロボバトルコンテスト」～機械は人間の手を超えられるか～に本学【ロボット倶楽部】から3チームが出場し、KUT team Bが準優勝と審査員特別賞をW受賞しました。

この大会は規定の競技フィールドに入っているワーク(ロッテ・コアラのマーチの箱!)を各チームが自作ロボットでキャッチし、ボックスにシュートしてその得点を競います。対戦チームとの共通ゾーンと自分の陣地に置かれたワークを傷つけないよう迅速に、制限時間内に1つでも多く取ることがポイントです。開催4回目の今回はロボット倶楽部を含む11大学・18チームが出場しました。

顧問の綿森道夫准教授は、「今大会の準優勝は、3年生が2年生へ、2年生は1年生に着実にモノづくりの技術を伝え、学生自身の力で羽ばたくことができた成果です。部員たちは、この大会に出場し、多くのことを学びました。大学や協力いただいた皆様に、心から“ありがとう”を伝えたいです」と感想を述べました。



大会の感想と将来の目標を聞きました!

3年になって後輩に教えられるように、しっかり勉強して、知識と経験を積んでもらいたい。実践で技術に磨きがかかるのだから。世界一のロボット技術者になる!

徳永貴昭部長/システム工学群3年



制御担当。まだまだ先輩の力を借りる場面もあったが、作業がスムーズに進むようにサポートを心がけた。宇宙に関わる技術者になりたい。

平塚丘将くん/システム工学群2年



大会当日、操縦担当で、復帰など動作確認ができた。宇宙やロケット関係の仕事に就きたい。

大塚祐樹くん/システム工学群1年



ロボ部全体のチーム力が良かったと思う。近い将来、NHKロボコンの本戦に出場したい!

江尻隆秀くん/システム工学群1年



先輩のロボットを、参考にしながらアイデアや改善点を出し、シンプルかつ組み立てやすいように設計した。人の役に立つロボットをつくりたい。

多田敬佑くん/システム工学群1年



秋

卒業式 7名が巣立つ

9月17日(水)、秋季卒業式・学位授与式を執り行い、学士課程1名、博士後期課程6名が本学を巣立ちました。

学位記授与に続き、佐久間健人学長より「皆さんの努力が本日の卒業につながったのだと思っております。大学の卒業証書あるいは学位記は、その証拠であります。長期に亘る継続的な努力は、人生を豊かにする源です。これからの人生においてさまざまな困難や難題に直面する場合もあるでしょう。その時には、皆さんが本学で学んだ経験を活かして人生を切り開き、実り多い時を過ごされることを心から願っております」とはなむけの言葉が贈られました。

卒業生・修士代表 Hou Liyuanさん(基盤工学専攻 博士後期課程)から、「初めて本学にきた際、緑に囲まれた山々と澄み切った青空、素晴らしいキャンパスに感動した記憶が、昨日のように鮮やかに蘇ります。大学祭、よさこい祭り、花火大会は、最高の思い出です。指導教員の大濱先生はじめ、環境理工学群のみなさんから、アドバイスをいただき、無事、研究論文を完成させることができました。また、土佐山田のまちの方々が、いつも笑顔で接してくれたことを、生涯忘れません。私たちは、

高知工科大学で学んだという誇りを胸に、世界のために貢献したいと思います」と謝辞が述べられました。



地域をゲンキに! 地域活性学会

10月5日(日)、高知県立大学永国寺キャンパスにて地域活性学会中国四国支部設立会合が開催され、研究者、実務家、行政担当者など約40名が参加しました。

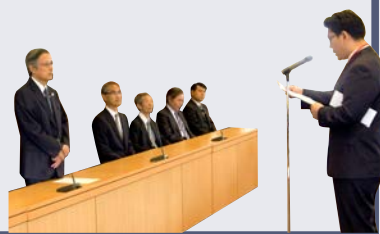
地域活性研究の第一人者として知られる高崎経済大学の宮登先生による基調講演「地域活性化と人材育成」や研究発表も交え、活発な議論・交流が行われました。

新

入生は13名! 秋季入学式

10月1日(水)、平成26年度秋季入学式を執り行い、大学院工学研究科基盤工学専攻修士課程9名、同博士後期課程4名、計13名の新入生を迎えました。

佐久間健人学長から、「本学で日本のみならず様々な国の文化に触れてください。互いに理解を深めることが国際交流につながります。とくに若いうちの海外経験は、新たな知識や考え方を吸収する絶好の機会です。学生生活が実り多きものとなるよう、この好機を活かしてください」との告示があり、入学学生代表 Hao, Weiさん(中国出身)が「KUTの一員となることを大変誇りに思います。チャンスを活かし、研究に没頭し、研究者、教育者としての見識を身に付けていきたいです。私は、日本と中国の学術および文化交流のかけ橋となるべく励むことを誓います」と堂々と宣誓しました。



KUT Quarterly NEWS

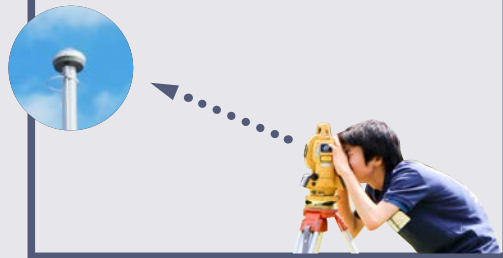
おもしろさ再発見! 測量コンテスト

“測量コンテスト in 高知工科大学”を9月27日(土)に開催。「測量の原理・原則に立ち返り、技術を養い、おもしろさを実感するきっかけに」と、高木方隆教授(システム工学群)らの発案で2006年より本学が主催しています。

精密機器部門と自作機器部門別に、プロ・アマを問わず3人1チームでの参加。今年の測量課題は本館脇の国旗掲揚ポール先端にある「円筒形の最大直径」でした。

爽やかな秋晴れのもと、知識と経験を活かし高校生、専門学校生、大学生の全19チームが測量精度を競いました。

【精密機器部門／参加15チーム】
総合優勝 シビルクラブ アース (伏見工業高校)
シビルクラブ サン (伏見工業高校)
技能賞 チームこれもん (高知工科大学)
敢闘賞 SAKURA (安芸桜ヶ丘高等学校)
【自作機器部門／参加4チーム】
技能賞 チームヤマサキズ (高知工科大学)
敢闘賞 キタマツミドリ (高知大学農学部)



本学学生寮の 安全祈願祭

10月17日(金)、本学にて岡村理事長をはじめ、佐久間学長、関係者の出席のもと、「本学学生寮(香美キャンパス)」の安全祈願祭を執り行いました。

経済・マネジメント学群開設にあわせ、国際交流会館:International House 近くに、地上3階のシェアハウス型の学生寮4棟(8人シェアと4人シェアタイプ各2棟)が建設されます。

プライベートを確保する個室と、仲間と繋がる共有ダイニングやキッチンスペースなどを設け、互いに学び助け合い、成長できる環境となっています。

公開講座 地域活性化システム論



香美市キャリア チャレンジデイ開催

11月1日(土)、本学で香美市内の全中学生約550名が一斉に職業学習を行う「香美市キャリアチャレンジデイ」(香美市教育委員会主催)が開催されました。

これは、職業観・勤労観の育成を目的とした教育プログラムで、講堂や教室、食堂等にブースを用意し、地元企業や公共団体の職員と中学生がトークセッションを行います。

本学から、榎本教授(環境理工学群)、繁樹准教授(情報学群)が講師として参加。中学生からの「大学ではどんな仕事をしているのか?」「大学の教員になったきっかけは?」「普段の研究について」等の質問に答えました。



改良した安寿レッドを使用した介護商品

篠森教授らの 研究成果が商品に!

篠森敬三教授(情報学群)らの、共同研究の成果がアロン化成株式会社の商品に活用されました。

同社介護商品の使用色「安寿レッド」の改良のため、64歳～83歳までの方々に協力いただき、暗い浴室環境で、手すり部分の色がどれだけ目立つかを比較評価する一対比較法や、感覚刺激の提示から行動反応が生じるまでの反応時間計測などの実験を重ね、その結果を基に高齢者にとって視認性の高い「安寿レッド」の色彩設計へと繋がりました。この研究内容は、国際学会でも発表され、高評価を得ています。

研究チーム(視覚科学技術コンソーシアム)

篠森敬三教授(高知工科大学/情報学群)
鈴木敬明科長(静岡県工業技術研究所/機械科)
中内茂樹教授(豊橋技術科学大学/情報・知能工学系)

2008年から続く公開講座「地域活性化システム論」をマネジメント学部と内閣府の連携のもと、今年度は10月26日(日)、11月9日(日)、12月14日(日)の計3回開講し、280名が参加しました。

本講座は、全国各地で地域活性化に携わる多彩な講師陣を招き、講演・パネル討論を通じて、地域資源を活用、ビジネス構築できる人材養成が目的です。

当日、多数お集まりいただいた中には、地域活性化に興味を持つ高校生の姿も。パネルディスカッションで多くの質問が飛び交い、アンケートにも講座の開催継続を求める高評価の声をいただきました。

毎年恒例! さあ秋の豊穡祭

10月26日(日)、佐岡小学校グラウンドにて「さあ秋の豊穡祭」が開催され、本学学生・教職員約60名が参加し祭を盛り上げました。

子ども、女性、男性の部に分かれて競う「やつこネギ飛ばし世界大会」では、安光穂高くん(情報学群2年)が13m97cmの記録で男性の部優勝!

その他、玉入れなどKPAD企画のふれあい軽スポーツにジャグリング披露、吹奏楽部 WINDBRASSやJAZZ研究会のコンサートなど、佐岡の方々との交流を深めた1日でした。

ロボット展示が人気 高知家あったか家族フェア

11月3日(月・祝)、高知県立青少年センターにて「高知家あったか家族フェア」(主催:高知県、高知県少子化対策推進県民会議)が開催されました。

高知県で出会い・結婚・妊娠・出産・子育てを応援する運動の一環として実施。会場を一つの大きな家に見立て、「赤ちゃん部屋」、「家族の台所」、「子ども部屋」、「体験部屋」など、各部屋にちなんだ催しが展開されました。

「体験部屋」にロボット倶楽部、電創車、Space.Lab部、航空研究会、八田研究室の学生がブースを出展。特にロボット倶楽部のロボット展示 & 操作体験や八田研究室の人力発電体験は、来場者の注目を集め、多くの家族連れで賑わいました。

歩き続けること24時間! リレー・フォー・ライフ

10月11日(土)、12日(日)にかけて高知市城西公園で開催された「リレー・フォー・ライフ」に本学学生と教職員ら31名が参加しました。

「がんは24時間眠らない、がん患者は24時間がんと闘っている」をメッセージにフィールドを歩き、がん患者・家族・市民医療従事者・行政・企業など多数の方の思いを一つにする今回で7回目となるチャリティイベントです。学生らはがん患者やがんを克服した方々とともに、24時間、交代で1本のたすきをつないで歩き続けました。

がん患者への様々な支援活動のあり方を知り、自分たちにできる支援活動について考える機会となりました。



KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します!

高校生も興味深々! オープンキャンパス

9月27日(土)、今年度2回目となるオープンキャンパスを開催しました。天候に恵まれ、約1,100名の高校生・保護者の皆様が参加しました。メモを取ったり学生に質問をしながら研究室を見学、大学の講義を体験したりと、参加した高校生から「大学の魅力を感じ、入学したいという思いが深まりました。頑張って受験しようと思います」と感想が寄せられました。



グローバル体験! 海外 インターンシップ報告

11月10日(月)、本学にて平成26年度海外インターンシップ報告会を開催しました。

昨年度から、海外での就労体験を通じ外国語でのコミュニケーション能力と異文化適応力を養い、多様性を受け入れる寛容さと自国の文化や歴史に対する理解を深めることにより、これからのグローバル社会で活躍する人材育成を目的として海外インターンシップを行っています。今年度は、8名の学生がアジア、オーストラリアで約1ヶ月間グローバルビジネスの現場を体験しました。

報告会では、それぞれにインターンシップの内容や滞在中の様子を、ユーモアを交えてプレゼンテーション。高橋奈央子さん(システム工学群3年/タイの泰日経済技術振興協会へ派遣)は、「新たな発見や経験により、初めて自分の周りの思われた環境を実感しました。今回得たことを今後の学生生活に繋げていきたい」、藤枝優果さん(マネジメント学部3年/ベトナムの(有)池川木材工業へ派遣)は、「自分が変わるきっかけとなり、ベトナムに新しい“家族”ができました」と感想を述べました。



平成日曜市に全員集合!! おはまる市開催

11月16日(日)、香美市役所隣「土佐山田平成日曜市」と本学学生団体とのコラボレーションイベント「おはまる市」が開催されました。

“日曜市を活性化できないか?”という地域の声を受け、地元を盛り上げようと学生有志の企画と、香美市商工会や香美市観光協会等のご協力で昨年に続き3度目の開催。今年は、“人が集まる日曜市を知ってもらうこと”を目標に総勢約100名のボランティア学生が集まりました。

吹奏楽、アカペラ、よさこい演舞、ジャグリング、香美市クイズにジャズ演奏と、子どもからお年寄りまで楽しめる多彩なステージイベントで来場者を魅了。吹奏楽部の演奏に、録画をしたいと希望がでるほど好評でした。最後は“餅投げ”で高知らしい活気に包まれました。



本学地域交流推進委員会(土佐山田平成日曜市活性化プロジェクト)代表として企画・運営に携わった一色淳くん(システム工学群2年)は、「団体を立ち上げ、企画をしていた先輩方が卒業して初めての開催で、不安な事ばかりでしたが、部員をはじめ様々な人達の協力によって無事おはまる市を開催できました。今年も、地域の方々と一緒に楽しめるイベントとなったと思います。これからも“おはまる市”に限らず、土佐山田平成日曜市をはじめ、

地域を盛り上げる活動を行っていききたいです」と感想を述べました。

日曜市出店者のみならず、地域からも今後の継続的な取り組みに期待が寄せられています。



スポーツ交流! 黒龍江大学卓球部が来学

本学との交流協定締結校・黒龍江大学卓球部の部員らが9月6日(土)～12日(金)の1週間、卓球交流のため来学し、今年3月に、同大学を訪問した本学卓球部16名との再会を喜びました。

同大学卓球部のリー・ダージーコーチは、「近年の高知工科大学卓球部の実力向上に感銘を受けている。国を超えたスポーツ交流が若い選手らを奮起させ、良い刺激になっている」。グオ・ジンフエン体育主任は、「これまでの両大学の交流は単なるスポーツ交流ではなく、今後選手に国際感覚を身に付けさせる良い機会としましょう」と交流継続の意欲を高めました。



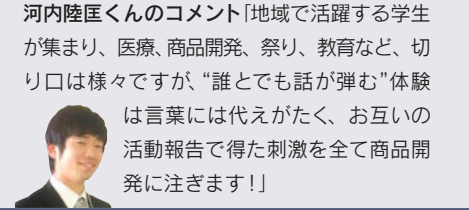
熱いエールを交換 公立大学学生大会!

10月11日(土)、12日(日)に兵庫県立大学にて開催された平成26年度全国公立大学学生大会に、久米井紀則くん(河内陸匡くん(共にマネジメント学部3年 商品開発部所属)が参加しました。この大会は、地域活動を実践する学生がボスターセッションや、ワークショップを介して交流を深め、地域貢献活動の事例などを学び、今後の活動に役立つ機会となっています。

今回は「大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」をテーマに、情報・意見交換が活発に行われました。

久米井紀則くんのコメント「同じ熱量を持つ全国の様々な学部や団体の仲間達と語り合い、目標とするリーダーシップや他学部の価値観に触れることの大切さを学びました。この体験を部員へ伝え、団体活動の向上に繋げていきたいです」

河内陸匡くんのコメント「地域で活躍する学生が集まり、医療、商品開発、祭り、教育など、切り口は様々ですが、“誰とでも話が弾む”体験は言葉には代えがたく、お互いの活動報告で得た刺激を全て商品開発に注ぎます!!」



最先端科学の研究交流! 「脳と情報シンポジウム」

10月31日(金)、「脳と情報シンポジウム」(総合研究所脳コミュニケーション研究センター主催)を、本学にて開催しました。

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長 堀内義規氏、元文部科学事務次官 清水潔氏をまじえ、脳科学・脳情報学の気鋭の研究者の方々に講演いただき、本学教員も最新の研究成果を発表しました。学内外から約130名が参加し、有意義な議論や意見が交わされ、本学の研究水準のさらなる向上に期待が寄せられました。



KUT Quarterly NEWS

充実の成果!ミズーリ大学サマープログラム

マネジメント学部サマープログラムでお世話になったアメリカのミズーリ大学セントルイス校から、グラスマン氏(International Studies & Programs Director)と古屋客員教授が9月9日(火)、10日(水)に来学しました。



渡邊法美教授(マネジメント学部)が、ビジネス英語研修や現地企業の経営者へのインタビューを通じ、起業のためのビジネスプランの作成方法を学ぶなど、充実したプログラムであったと謝意を伝えました。プログラムに参加した学生も積極的にディスカッションを交わし、佐久間学長や磯部副学長と、今後の大学間交流に関する意見を交換しました。

また、10月20日(月)にサマープログラムの報告会を開催。同プログラムに、参加したマネジメント学部生10名が英語を使って行いました。事前研修から、英語でビジネスやマネジメントについて学び、現地企業を訪問。ビジネスプラン立案のため、ディスカッションをしたり、他社との違いを出す難しさを体験し、「長期留学したい」「グローバルカンパニーに就職したい」など、目標を見つけ充実した様子が報告されました。

WIND BRASS 秋のコンサート



9月23日(火・祝)、吹奏楽部WINDBRASSがオータムコンサート～世代をつなぐ音楽～を開催。

高知県南国市より「Musical Time」をゲストに招き、ティズニーメドレーⅡ、風になりたいなど全12曲を演奏しました。

代表の内地愛香さん(システム工学群2年)は、「なかなか聴く機会のない、大編成での生演奏を、皆さまに楽しんでいただきました。ご来客の皆さま、運営、演奏等ご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます」と感謝のコメント。

また、10月12日(日)、「第17回レインボーコンサート」でもトップバッターとして演奏。本学講堂に香美市立鏡野中学校吹奏楽部、陸上自衛隊第14音楽隊を迎え、それぞれの演奏で大勢の観客を魅了し、芸術の秋を音楽で彩りました。

おもしろ科学教室 各地で開催

本学教員や学生が講師を務める「おもしろ科学教室」を本学キャンパスや県内の小学校などで開催しました。



今年度は夏休みを中心に5回のイベントを開催し、総勢、約1400名の子ども達や保護者へ科学のおもしろさを伝えました。

体験内容は、ペットボトルを加工して制作するXシャイロ体験やロボット操作体験、星座早見盤制作体験、自転車発電、液体窒素を使った実験等です。中には、初めて講師を務める学生もあり、多数の小学生を前に緊張の面持ちでしたが、分かりやすいように説明したり、時には笑いを入れるなど工夫して取り組んでいました。

紙飛行機教室では、飛行機が飛び原理に子ども達は興味津々。「なぜ飛行機に雷は当たらないのか?」「飛行機はどんなエネルギーを使って飛んでいるのか?」等の難しい質問が飛び出し、大学生と遊びながら、科学と親しんでいました。



Space.Lab 部がプラネタリウムを出展

11月9日(日)、土佐市民体育館等にて「土佐市ふれあいフェスタ」(高知県土佐市主催)が開催されました。

本学からSpace.Lab部が「プラネタリウムで宇宙わくわく体験!」と題し出展。あいにくの天気でしたが、たくさんの方々にプラネタリウムを楽しんでいただきました。

Space.Lab部学生リーダー志波佳祐くん(環境理工学群2年)は、「イベントが始まる前は人が入ってくれるか少し不安もありましたが、毎公演満員で嬉しい誤算でした。これをきっかけに、子どもたちが星に興味を持ってくれると嬉しいです。このイベントに参加し、私たちも成長することができました」と語っていました。



災害に備えたネットワーク構築へ

9月22日(月)、大規模災害を想定したネットワーク防災訓練を本学や高知大学を含む県内高等教育機関で実施しました。

昨年に続き2度目のこの防災訓練は、人為的にネットワークへ障害を発生させ、その障害や復旧手順の確認が目的です。前回の訓練で発生したトラブルを原因究明し、今回動作確認ができました。

この訓練を継続的にを行い、非常時における「想定外」の事態を縮小するべく、南海地震が想定される高知県で、全国に先駆け地域の関係機関が一体となって取り組んでいます。

全卓樹教授著の書籍発売!

全卓樹教授(環境理工学群)の著書「エキゾチックな量子:不可思議だけど意外に近しい量子のお話」(東京大学出版会/2,600円+税)が9月20日(土)に発行されました。

『「粒子は波である」「不可知は完全な知である」奇怪で不可思議で美しい、私たちの世界をつくる量子力学。その基本と量子生物学や宇宙論・情報理論など話題のテーマを、物理と哲学と文学を絶妙にからめたユニークな文体でつづる。』(東大出版会 HPより)

10月1日(水)の日本経済新聞エンジョイ読書内で、サイエンス作家竹内薫さんがおすすめる1冊として掲載されました。



KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します!

めざすは、絶景・天空の郷!

11月23日(日・祝)、佐岡地区公民館主催「天空の郷ウォーキング」が開催され、本学学生、地域の方々など約100名が参加しました。旧香美市佐岡小学校からスタートし、目的地の香美市土佐山田町佐竹まで、道の途中でみかん狩りを楽しみながら、約90分かけて到着。

目的地の天空の郷では、霞がかかり遠望はできませんでしたが、見事な眺めに感激、佐竹地域の方々の心づくしの手料理や、本学JAZZ研究会の演奏など、全員で楽しみました。

育て、若い思考力! 数学コンクール表彰式

11月9日(日)、本学地域教育支援センター主催「高知県高等学校数学コンクール」の表彰式を行い、磯部雅彦副学長より各賞が授与されました。高知県内の高校生に、数学的な見方や考え方、および思考力を培うことを目的として実施され、今年度で2度目の開催です。

当日は、普段高校生が触れるものとは異なるアプローチなど出題問題の解説も。

最優秀賞を受賞した高知学芸高校1年尾崎くん・山本さんは、「解説を聞いているとまだまだ数学の力が足りないと感じました。今後も頑張っていきたいです」「賞を貰うことが出来てうれしいです、これからもこういう賞に挑戦していきたいです」、優秀賞を受賞した明徳義塾高校1年厳さんは「問題が難しく、調べながら解いたので、色々な勉強が出来て良かったです」とそれぞれ語っていました。

左から/最優秀賞 尾崎俊介くん・山本麻由さん(高知学芸高等学校1年)
優秀賞 厳浩允さん(明徳義塾高等学校1年)



中国・燕山大学から学長が来学

本学交流協定校の一つ燕山大学(中国河北省秦皇島市)から劉宏民学長、董洪学国際交流合作処処長、滕国生芸術設計学院院长が協定更新のため、10月23日(木)に来学されました。

2003年に交流協定を結び、これまで同大学から10名の学生を本学博士後期課程特待生(SSP)として受け入れています。

劉学長らは、王碩玉教授(システム工学群)の研究室などを見学。岡村理事長、佐久間学長、八田国際交流センター長らとの懇談会では、さらなる学術交流と高等教育の在り方等について意見交換を行いました。

物部の森を明るく! 協働の森交流事業

11月8日(土)、本学学生・教職員13名が香美市物部町で、間伐体験と木材集出荷施設を見学しました。

本学後援会とともに、高知県と「環境先進企業との協働の森づくり事業」で、平成20年9月よりパートナーズ協定を締結しています。後援会が支出した協賛金を元に、これまで香美市内の森林約22haを整備し、それにより得たCO₂吸収量が約190tと高知県より認証されました。

また、本年7月18日(金)には第3期協定(期間:同日~平成29年3月31日まで)を締結し、「高知工科大学・物部川共生の森」と名付けた協定森林の再生へ取り組んでいます。今回は参加者の環境保全意識の醸成を目的に、午前中、物部森林組合の



指導のもと、慣れないチェーンソーを使用した間伐作業に臨み、伐った木が周囲の木々に引っかかる「掛かり木」に苦労しながら、15本ほど伐採しました。ほとんどの参加者が間伐作業は初体験でしたが、真剣に取り組み、間伐作業の難しさと達成感を味わいました。

午後からは、木材の集出荷施設「物部森林ストックヤード」を見学し、物部川流域で伐採された木材の流通の仕組みや取引額等について学びました。

今後も物部川流域の自然環境保全のために、様々な活動を進めてまいります。



香美バルに華を添えるスペシャルイベント

10月31日(金)、11月1日(土)、香美市土佐山田町にて「香美バル」が開催され、本学の学生も参加しました。

スペイン語のBAR(バル)が由来で、スペイン・イタリアなど南ヨーロッパでは、酒場や軽食喫茶店などをさします。早朝から深夜まで利用でき、立ち飲みスタイルで「はしご」して楽しめます。土佐山田駅周辺には、チケットと専用マップを片手にイベント参加店をはしごしている多くの方々の姿が。スペシャルイベント会場ふらっと中町では、JAZZ研究会、ジャグリング、ダンス同好会、ピアノ同好会の学生が日頃の練習成果を披露し、「香美バル」を盛り上げました。

このイベントに携わった、学生代表清水優子さん(マネジメント学部2年)は、「ここに暮らす人やお店の魅力を知ってもらい、今後の交流機会の増加に繋がるイベントとなりました」と述べました。



朴教授の立証成果が新聞各紙で報道!

朴啓彰客員教授(地域連携機構)が参加する研究チームの立証成果が「PLOS ONE」に掲載され、毎日新聞、高知新聞、新華社通信などで報じられました。

加齢や高血圧で脳に「白質病変」と呼ばれる隙間が生じた人ほど交通事故の可能性が高まるという統計調査を、実際に運転実験を行い立証。この結果をふまえ、交差点で事故を起こしやすいことや、一時停止無視など運転ミスや事故の局面を予想し、未然に事故を防ぐための運転教育への活用が期待されます。

11月25日(火)、26日(水)、本学にて国際シンポジウム「International Symposium on Interaction design and Human Factors, IDHF 2014」を開催、学内外から約100名が参加しました。

世界的に活躍されるJohn M.Carroll教授(米国ペンシルベニア州立大学)による「From Community Network to Innovation Infrastructure」、Aaron Marcus氏(AM+A)の「Mobile UX Design: Past, Present, and Future」の基調講演をはじめ、ヒトとコンピュータの相互作用やヒトの特性(特にヒューマンエラーやヒトの認知・身体的制限)が及ぼす影響についての研究成果発表があり、活発な意見を交わしました。

なお、ポスターセッションで、松尾達郎さん(大学院修士課程情報システム工学

コース1年/吉田研究室)がBest Poster Awardを受賞しました。



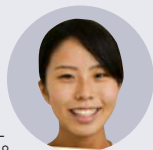
2014 秋冬受賞者一覧 すばらしい成績・成果をたたえます！

学生奨励賞を受賞！

7月29日(火)に大阪市立大学で開催された「電子情報通信学会」にて、福井さゆりさん(大学院修士課程情報システム工学コース1年/濱村研究室)の『近似ZCZ系列セットの生成』が、ワイドバンドシステム研究専門委員会から学生奨励賞を授与されました。

【福井さゆりさんのコメント】

奨励賞を頂き、大変うれしいです。この賞を頂いたのも、濱村先生の丁寧なご指導があったことで感謝しております。この研究でやり遂げたいことがたくさんあります。よりよい研究成果を残すため、努力を惜まず、頑張ります。



虹彩賞を受賞！

9月8日(月)～10日(水)、「2014年日本液晶学会討論会」が島根県松江市で開催され、亀井和正さん(大学院修士課程知能機械システム工学コース2年/蝶野・辻研究室)が『液晶一等方相界面を利用したマイクロマニピュレータの駆動特性』の発表で「虹彩賞」を受賞しました。

【亀井さんのコメント】

学会で賞をいただくのは今回で2度目です。全国規模の学会で研究内容や発表が評価されうれしく思います。今後も、液晶一等方相界面の現象を明らかにするために、コソコソと研究を続けていきます。



研究発表賞を受賞！

9月24日(水)、25日(木)に香川県高松市で開催された「日本材木学会中国・四国支部 第26回研究発表会」で、安藤広将くん(環境理工学群4年/堀澤研究室)が研究発表賞を受賞しました。

【題目】「スエヒロタケのエタノール発酵における原料糖による生産効率の違い」

【安藤さんのコメント】

初めての学会での受賞に驚き、試行錯誤を重ねた結果が認められ、大変嬉しく思います。学会発表で得たことを今後の研究に生かし、さらにより研究成果に向けて頑張ります。



TechStuDIG2014で優勝！

9月12日(金)～15日(月・祝)の4日間、「TechStuDIG2014(株式会社DeNA主催)」が開催され、山内雅斗さん(大学院修士課程情報システム工学コース1年/高田研究室)のグループが見事優勝しました。

「身の回りで埋もれているモノを有効活用する Web サービスの制作」という課題にグループで取り組むサマーインターンシップ。

山内さんは、「他大学の人とチームを組み、コミュニケーションをとる難しさを感じながらも、アプリ製作に取り組み、綿密な打ち合わせを重ね、企画、使いやすいやさ日本語の表現一語一句に気を付けて作業しました。プレゼンテーションを行い、「使ってみたい」、「愛がある」など高評価をいただきました」と振り返ります。

山内さんはチームメイトと一緒に、11月の約2週間、副賞のアメリカシリコンバレーツアーに参加しました。

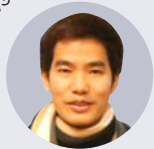


国際学術会議でベストプレゼン賞受賞！

11月22日(土)、「第7回日本 - タイ国際学術会議 2014 (TJIA2014)」が東京大学本郷キャンパスで開催され、Udom Junthornさん(大学院博士後期課程基盤工学コース2年/八田・古田研究室、指導古田寛准教授)の論文発表が最優秀賞に選ばれました。

同会議は、タイと日本間の共同研究促進のため、在日タイ留学生協会(Thai Students' Association in Japan under Royal Patronage, TSAI)が主催。国内外から約300名が参加し、71名が論文発表するなかの快挙です。

Udomさんは、「八田先生、古田先生の多くの提言や技術的アドバイスのおかげで、最優秀賞を受賞することができました。この賞は、私の研究のゴールへ向かう大きな原動力となります」と喜びと感謝をあらわしました。



ベストポスター賞受賞！

9月24日(水)、25日(木)ポーランドで開催された「第35回AIVC Conference 国際学会」にて、田島昌樹准教授(システム工学群)の研究が、Best Poster Awardを受賞いたしました。

AIVC(Air Infiltration and Ventilation Centre:換気漏気センター)は国際エネルギー機関の組織の一つです。

【受賞題目】建築換気のための人間の呼吸に含まれるCO₂量の推定式



最優秀賞を受賞！

10月10日(金)～15日(水)、中国河南省鄭州市にて新奇物質及びその合成に関する「The 10th IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis」が開催され、小廣和哉教授(環境理工学群)が最優秀賞を受賞いたしました。

小廣教授の研究は、光触媒、高性能研磨剤、断熱コーティング剤など、多様な分野での活用が期待されています。受賞題目:超臨界アルコールを用いる貴金属修飾複合多孔質TiO₂ナノ粒子の合成



ポスター賞を受賞！

川原村敏幸准教授(総合研究所/システム工学群)が「第75回応用物理学会秋季学術講演会」にて、ポスター賞を受賞しました。

同賞は、応用物理学の発展に貢献する優秀なポスター講演(ポスター講演総数の概ね2%以内)に対して表彰されるものです。「ライデンフロスト効果を利用したミストCVDによるFe₂O₃/Ga₂O₃多重量子井戸の作製」
その他の受賞者: 鄧太江、新田紀子(総合研究所/環境理工学群 講師)



「虹の学校」がAR+d Awards 優秀賞を受賞！

渡辺菊真准教授(システム工学群)の建設作品「虹の学校 School Floating in the Sky」が「AR+d Awards for Emerging Architecture 2014」の優秀賞に選ばれました。虹の学校は、タイ国境の村、サンクラブリにあり1階は土囊ドーム、2階は現地民族の竹を使った伝統技術(工法)を用いた孤児院兼学校です。



無敗で中四国大会を制覇！

10月22日(水)～24日(金)、「第60回中四国学生弓道選手権大会」が広島県廿日市で開催されました。男子弓道部が団体戦にて、8勝0敗297中の成績で見事優勝。11月22日(土)～24日(月)に行われた「第62回全日本学生弓道王座決定戦」に出場しました。

【主将 門田 晃一くんのコメント】

中四国学生弓道選手権大会での優勝を目標に、部員みんなで努力してきました。今回の目標達成を大変うれしく思います。

四国EVラリー 部門優勝！

8月30日(土)、31日(日)の2日間、愛媛県上島町で「四国EVラリー 2014 in かみじま」が開催され、本学から「電創車」が出場しました。

電気自動車(EV)による四国エコ交通システム普及のために、EVの安全走行と効率的な充電を追求し、「公道走行」と「性能計測」のポイントを合わせて競います。

市販の電気自動車や、ガソリン車を改造した自動車や二輪車などで14チームが、弓削島・佐島・生名島の名所を駆け抜けました。『電創車』は、ホンダのモンキーをベースに改造した二輪車で、原付/鉛酸バッテリー部門で出場、総合で上位4番目のポイントを獲得する活躍をみせました。

出場した三谷尚央くん(システム工学群2年)は、「軽量バッテリーステータFRPカウルなどを自作し、より軽く、長距離走行できる車体をめざしました。製作の中でアーク溶接やFRP樹脂の使用、電子工作など様々な技術を学びました。来年は総合優勝を狙って、さらなる軽量化とパワーアップを目標に努力します」と意気込みを語りました。



発明表彰を受賞！

松本泰典准教授(地域連携機構)が、平成26年度四国地方発明表彰日本弁理士会会長奨励賞を受賞しました。

塩分濃度1%の塩水をおかゆのような状態で製氷できる「シャベット氷製造機」を開発。魚類の鮮度や品質を高く保持し、魚の価値を下げることなく流通できるという優れた発明と地域産業への貢献が高く評価されました。

高知県にとどまらず、国内の水産業活性化や農産物への活用が期待されています。また、岡村甫理事長に対しても、発明を後押しした本学を代表して実施功績賞が授与されました。

■発明名称「シャベット氷製造機」

■発明者名

松本泰典准教授(本学/地域連携機構)
岩川三和氏(株式会社泉井鐵工所/技術部次長)
岩切重俊氏(日新興株式会社/技術本部開発部 部長兼大阪支店工務部長兼工務本部長)
横川明氏(元本学総合研究所/ものづくり先端技術センター長)

左から
岡村甫理事長
松本泰典准教授



イイセンスイ Vol.11

チャンスの音を聞け！

先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイセンスくらい語ってもらいました！

今回言い過ぎる人
しみず あきひろ
清水 明宏 センセイ



ね すみは、2～3年で一生を終える。象は、寿命が長く、70年近く生きる。ねずみも象も、一生の心拍数は、どちらも約15億回。呼吸数もほぼ同じで、約3億回だそうである。ねずみと象の例にかかわらず、大きい動物ほど寿命が長く、小さい生物ほど心拍数が多い。一生のうちに打つ心拍数の合計は、動物の種類にかかわらずほぼ同じだそう。呼吸数も然り。

よく「ついているやつは一生ついている」だとか、「ついていないやつはどこまでもついていない」とか言われるが、一生のうちのついている事象のトータル数はだいたい決まっていると考えた方が合理的ではないだろうか。

いつも思うことだが、チャンスはみんなに平等に訪れているに違いない。同じくらいの数のチャンスがみんなの頭の上をビュンビュンと音をたてて通りすぎている。「ついている」「ついていない」の差は、そのチャンスをうまく捕まえられるか捕まえられるかにかかっている。着実に捕まえるためには、チャンスを見極める目と、それをしっかり捕まえられる力を、普段から身につけておかねばならない。

君らにとっては、学生時代の今がその準備の時ではないだろうか。我々人間の知的活動に関して言えば、一生分のトータルは決まってない。人脈、知識、発想、これらは次々と湧き出してくるものである。あらゆる方面に人脈を広げ、多様な知識を身につけ、常に新しい発想を貪欲に生み出す。これらの活動こそがチャンスを逃さないための素養となる。

学生に、「死んだらいくらでも寝られる」とか口を滑らせることがあるが、「はい!」とにこやかに聴いた学生は、普通に10時11時に登校してくる。記憶は定かではないが、わたしが学生の頃は、ここまで腑抜けてはいなかったように思う。今はいろいろ複雑な時代だから、学生諸君にはきっとやることが沢山あるのだろう。それにしても、ここまで自分に甘いと、余計なお世話だと思われるも君らの将来が心配になる。

学生諸君にはもっと強くなってほしい。今の自分を振り返ってみて、自分に甘いところはないか?他人にやさしく、自分に厳しく、日々ちゃんとした生活を送っているか?常に感性を研ぎ澄ませ、決してくじけることなく一步一步進んでいく。学生諸君にはそんなしっかり地に足をつけた生き方をしてほしい。

「死なない程度に死ぬほどがんばれ!」くらいは言いたい。

2代目イイセンスジャッジ
高知工科大学 入試・広報部 土江



Information

工科大よりおしらせ

開学記念日である11月7日(金)に
平成26年度開学記念日式典が執り行われ、
学生への各種表彰、教員表彰ならびに
名誉教授称号授与が行われました。

Congratulations!

学長賞

学業成績最優秀賞

2年次以上の学群・学部生で学業成績が優秀な学生に対して与えられます。

	システム工学群				環境理工学群		情報学群		マネジメント学部	
2年次生	窪添	諒	領内	あゆみ	楠原	雅貴	福田	和馬	武上	由法
3年次生	佐竹	宏太	近持	佑幸	内藤	早紀	林	憲佑	福島	舞子
4年次生	山下	崇仁	長谷川	悠	柴内	博	宮崎	玲奈	朝日	康介

学業成績優秀賞

	システム工学群				環境理工学群		情報学群		マネジメント学部	
2年次生	狭間	弘菜	竹葉	陽南	平石	美波	瀬戸	幹章	藤本	愛理
	津村	篤志	福本	勇樹	越智	響	甲原	春花	遠藤	巧巳
	毛利	匡志	田村	裕吾	三宅	啓太	中尾	成一	日浦	亮祐
	岡田	澄果			海野	優斗	松田	直諒	関川	はるか
									高樽	実可子
3年次生	徳永	貴昭	高樽	奈央子	中村	孝明	梅崎	佑樹	内山	紗綾
	中嶋	あかり	松田	琳子	安岡	杏紗	米田	裕司	小島	和海
	川村	日成	花崎	正明	岩井	健人	松本	拓也	藤枝	優果
	澤田	真衣			増田	英行	坂田	恵理歌	安藝	理菜
									佐藤	静香
4年次生	高木	耕平	徳永	裕二	藤巻	美紀	奥村	順哉	山崎	祥悟
	山下	茜	山内	一希	小松	眞也	中山	佐和子	西岡	真弥
	枝本	雅史	佐藤	博則	村岸	建吾	佐藤	有花	玉井	亮子
	横田	正亮			二宮	和典	松下	和生	藤田	隼

アスリート特別優秀賞

スポーツで優秀な成績を残すとともに、学業成績が優秀な学生に与えられます。

軟式野球部	水本	聡	(システム工学群)	男子卓球部	成田	湧介	(マネジメント学部)
女子卓球部	福島	舞子	(マネジメント学部)	男子ソフトテニス部	野副	達矢	(マネジメント学部)

アスリート優秀賞

水泳同好会	西森	賢	(システム工学群)	ソフトボール部	安居	新	(システム工学群)
軟式野球部	遠藤	峻	(情報学群)		上瀬	恭平	(マネジメント学部)
女子卓球部	原	佳菜絵	(マネジメント学部)	男子ソフトテニス部	田中	俊輔	(マネジメント学部)
	松山	明花	(マネジメント学部)		福永	光宏	(情報理工学群)
	泉	由里奈	(マネジメント学部)		中川	湧介	(マネジメント学部)

文化優秀賞

文化的な活動や芸術において優秀な成績を残すとともに、学業成績が優秀な学生に与えられます。

吹奏楽部	中地	愛香	(システム工学群)	大和	千紘	(システム工学群)
	濱田	董	(システム工学群)	清水	優子	(マネジメント学部)

学長褒賞

課外活動において顕著な成績、業績を修めた者、団体に与えられます。

軟式野球部	男子ソフトテニス部
ソフトボール部	サイクリング同好会
男子卓球部	ココイコ！プロジェクト
女子卓球部	防災ボランティアKPAD

廣井勇賞

熱い向上心とリーダーシップを持ち合わせた者として、同級生と教職員が推挙する3年次生に与えられます。

システム工学群	環境理工学群
機械系	池上 真麻
電子系	情報学群
建築系	遠藤 峻
	マネジメント学部
	福島 舞子

教員表彰

名誉教授称号授与

本学の教授として多年にわたり勤務し、教育・研究面で優れた功績を残され、退任された方に対して授与されます。

西郷	和彦	富澤	治
谷脇	雅文	末包	厚喜
坂本	明雄		

The Teacher of the Year

全学年対象のwebアンケートによる「今年最も良かったと思われる授業を行った教員」に与えられます。

鈴木	利幸	教授 (共通教育教室)
楠川	量啓	教授 (システム工学群)
中村	直人	教授 (マネジメント学部)

(表記は全て敬称略)

見たい！聞きたい！知りたい！工科大あちこち探訪レポート

KUT 学生
特派員
報告
SPECIAL
REPORT

REPORT

21

キャンパス内で働く「学内アルバイト」
講義の合間を活用して、学業とのバランスを取りやすそう…。
学生と職員の方々にお話をお聞きして、
そのメリットを探ります！

五代目 学生特派員

左から/武市 清高(情報学群3年)
塩見 侑司(情報学群3年)
上総 毬椰(マネジメント学部3年)

こんな学内アルバイトがあります

【※SA=Student Assistantとして】
教育や課外活動充実のため雇用される学生のこと。講義の空き時間を利用し、学内で勤務することができます。

- 教室の備品交換
- ラクガキの除去や清掃
- 駐輪場・バイク置き場の整理など

【長期】

- 図書館の貸出カウンター
- 研究開発センター受付アシスタント

【短期】

- 入学試験アシスタント
- 社会科学実験アシスタント

山根くん「自分の力で収入を得るためにはじめたのですが、熱心な大学職員の方々と学生と一緒に働くうちに、意識が変わり大学をより良くしたいとの想いでバイトに取り組んでいます」

山根祥くん
情報学群3年

遠藤くんはSAと学生食堂、山根くんは加えて図書館でアルバイトをしています。特派員「学内アルバイトを経験して、どうですか？」

キャンパス内で活躍！
学内アルバイトとは？
KUTでは、図書館や学生食堂(生協)で、また学生への経済的支援を目的としたSA制度など、学生が学内でアルバイトができる機会が多くあります。

実際に学内アルバイトの経験を持つ2人に話を聞きました。

では、一緒に働く 職員の方々のご意見は？

「学生と協働することで図書館をより快適にできる」と語る尾上課長や、図書館職員の岡田さんは「利用者でもある学生目線の気づきのフィードバックが本当に助かります」とおっしゃいます。学生食堂では、シフト管理や引き継ぎなど責任ある業務も学生が担当しています。「バイトリーダーを設けることで、学生による自立した組織になってきている」と、森店長は感じているそうです。そして、教務部の古谷部長から「清掃や駐輪場の整理など、本来は自発的に取組むべきことかもしれないけれど、給与が発生する仕事だからこそ、強い責任感とモチベーションで、より美しく快適な大学環境が維持できるのでは」との観点を教えていただきました。



教務部
古谷陽部長



学生食堂(生協)
森敏寛店長



情報部
学術情報サービス課
岡田佐智さん



情報部
学術情報サービス課
尾上晃弘課長

学生と職員の方、双方のお話を聞いて、①収入を得る機会づくり②学業との両立のしやすさ③大学運営の現場を知ることができるという3つのメリットに加えて、この学内アルバイトという仕組みを通して、大学環境がより快適に、学生の意識向上へ繋がっていることを実感しました。ぜひ機会があれば、学内アルバイトにチャレンジしてみましよう！

アルバイトを通して
より快適な大学環境へ！

ジ ッ カ ン
n o t e

武市 SAについてなかなか知る機会がなかったので「新鮮

でした！食堂で働いているので私を見に来てください(笑)

塩見 毎日利用しているKUTの施設は学生アルバイトによって綺麗に保たれているのだと改めて感じました。

感謝です！！

上総 勉学と両立しつつ、色々なことを吸収している学生さんに感動しました！是非多くの人に参加してほしい！



膨大な書籍が正しい分類ごと、順番通りに並んでいることは何気ないことですが、快適な図書館を支える大切な仕事です。

がんばっちょね!

工科大 15

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回の
インタビュー

共通教育教室教授
地域教育支援センター長

長崎政浩



今回は、本年4月に山田高等学校に新校長として赴任したばかりの通称「ハクミさん」こと濱田久美子さん。県の生涯学習課長、教育センター所長などを歴任、高知の教育に強い問題意識と情熱をもって取り組んできたハクミさんに、新人校長としての思いや高知工科大に対する期待などをお伺いしました。

—— 校長として山田高校（山高）に赴任して約半年。今、考えていることは？

山田高校の立ち位置を日々考えています。生徒たちの学ぶ姿勢も良く、落ち着いた校風で長い伝統をもつ山田高校のどこを維持し、どこを成長させるべきかじっくりと考えています。また、香美市という小さな地域に、工科大、山田高校があり、そこに幼保小中、特別支援学校がある。校種を超えた連携のできる環境を生かして工科大を中心とした新しい学園都市をつくりたいです。

—— 今年、香美市教育委員会、山田高校、高知工科大学で「香美教育コラボレーション会議」を立ち上げ、地域の教育の問題を一緒に考えてきました。

工科大学は、何事も「すばやく実現してくれる大学」。意志決定と行動が早いところがすごく魅力的。すぐに実現できないときもどうすれば実現できるか一緒に考えてくれます。また、香美市は、市長や教育長をはじめ、市役所や教育委員会の皆さんがいつも山高を応援してくれるので、地域に信頼される高校でありたいと感じます。私たち教員だけでは新しい発想は生まれにくいので、子どもたちや大人も含め色々な人とのコラボレーションの中で、新しいものを創り出していきたいと思っています。

応援団員

高知県立山田高等学校 校長

15 濱田久美子さん



工科大生は 高校生の自立と成長のモデル

——今年「山高へ行こうサイエンス事業」を始めたが、そのねらいは。

科学教育には動機付けの源があります。子供たちが最初に不思議を感じるのは、身近にある自然科学的なことです。その不思議をそのまま終わらせずに膨らませ、中高大とつなげることで、学びへの動機付けを強くできると思い、この事業を始めました。工科大のスペシャリストの先生方の力も借りながら充実させていきたいと思っています。

——山高生の成長のために工科大ができることは？

高校教育のキーワードは「自立」と「貢献」だと思っています。小・中学校は、自分のために勉強する時期です。高校生になり少しでも大人の仲間入りをすると、社会に何か貢献できることはないか、そのために何を学ばよいか、自分の将来を考えるようになるはず。今年、山田高校に工科大教職課程の学生研究室をおきました。教員を目指す学生に、学校現場のことを学んでもらうのが目的ですが、学生たちと山高の生徒たちを触れ合わせたいという思いもあります。今年はNPOなどで活動している学生にも出会いましたが、工科大には、地域のために活動している学生がたくさんいて、彼らは自立した大人のお兄さん、お姉さんという存在です。山高の生徒たちには、そのような学生たちと一緒に色々なことにチャレンジして、社会性を養い、将来のことを考えてもらいたい。多くの学生と出会うことで、学ぶ気持ちに火をつけたいと思います。



6月には工科大生が先生役として山高へ補習授業を行いました！

—— 最後に、今後の本学に期待することは。

もっともっと有名になってほしい。日本の大学は、世界でのランキングは高くないですが、工科大は「人が育つ大学」を掲げて特色のある教育を展開しています。この特色をさらに外に発信し、世界でも有名な大学になってほしい。そうすることで、香美市の教育レベルも上がり、市民も高校生ももっと誇りをもてるようになると思います。

インタビューを終えて

濱田久美子先生との仕事

のうえでのつきあいは長く、様々なことに共にチャレンジしてきた「同志」でもあります。「香美教育コラボレーション会議」でも、香美市の学校と高知工科大学をつなぐキーパーソンになってくれる人。今後も、工科大や香美市の教育について、多くの人々を巻き込んで、語りあっていきたいものです。

